

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2002-281620
起案日	平成18年 5月18日
特許庁審査官	東松 修太郎 3208 2000
特許出願人代理人	恩田 博宣(外 1名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理由

【理由1】

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

【理由2】

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

1. 理由1 ; 請求項1 ; 引用文献1

引用文献1(特に、【0024】-【0052】及び【図4】、【図5】を参照。)には、金属薄膜502及び電子注入カソード層503(共に、請求項1等に係る発明における「第2電極」に相当する。)、ホール注入アノード層504(請求項1等に係る発明における「第1電極」に相当する。)、第1電極側の前面を覆う保護膜508(請求項1等に係る発明における「パッシベーション膜」に相当する。)を有する有機EL装置が開示されている。

2. 理由1 ; 請求項1 ; 引用文献2



引用文献2（特に、【0097】－【0105】を参照。）には、AlLi電極（請求項1等に係る発明における「第2電極」に相当する。）、ITO透明電極（請求項1等に係る発明における「第1電極」に相当する。）、バリア層3（請求項1等に係る発明における「パッシベーション膜」に相当する。）を有する有機EL装置が開示されている。

3. 理由2 ; 請求項1－7 ; 引用文献1－5

（1）請求項1，4について

引用文献1（特に、【0024】－【0052】及び【図4】、【図5】を参照。）には、金属薄膜502及び電子注入カソード層503（共に、請求項1等に係る発明における「第2電極」に相当する。）、ホール注入アノード層504（請求項1等に係る発明における「第1電極」に相当する。）、第1電極側の前面を覆う保護膜508（請求項1等に係る発明における「パッシベーション膜」に相当する。）を有する有機EL装置が開示されている。

引用文献2（特に、【0097】－【0105】を参照。）には、AlLi電極（請求項1等に係る発明における「第2電極」に相当する。）、ITO透明電極（請求項1等に係る発明における「第1電極」に相当する。）、バリア層3（請求項1等に係る発明における「パッシベーション膜」に相当する。）を有する有機EL装置が開示されている。

そして、有機EL装置を液晶表示装置の照明装置として用いることは周知技術である。（例えば、引用文献3の【0027】－【0032】並びに【図1】、及び、引用文献4の【0005】－【0006】を参照。）

（2）請求項2，3，5，6について

例えば引用文献5（特に【0029】を参照。）に開示されているように、トップエミッショントイプの有機EL素子において基板側の電極に反射性を持たせることは、当業者に周知の技術にすぎない。

（3）請求項7について

ELバックライトと液晶表示部とを密着して設けることは、当業者が適宜なし得たことである。（例えば、引用文献3の【図1】、【図2】を参照。）

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平8-124679号公報
2. 特開2001-196175号公報
3. 特開2002-98956号公報
4. 特開2002-156524号公報
5. 特開2001-176660号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第8版 H 0 1 L 5 1 / 5 0 - 5 1 / 5 6,
H 0 1 L 2 7 / 3 2

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。
この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第1部応用光学 東松修太郎
TEL. 03 (3581) 1101 内線3271
FAX. 03 (3501) 0478